

岡山県感染症週報 2016年 第2週 (1月11日～1月17日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

◆2016年 第2週 (1/11～1/17) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第53週 5類感染症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 1名 (60代 女)
 第1週 2類感染症 結核 3名 (50代 女 1名、60代 男 1名、80代 女 1名)
 4類感染症 A型肝炎 1名 (60代 女)
 レジオネラ症 2名 (60代 男 1名、80代 女 1名)
 5類感染症 急性脳炎 1名 (幼児 男)
 梅毒 1名 (30代 男)
 第2週 2類感染症 結核 2名 (20代 男 1名、80代 女 1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- インフルエンザは、県全体で 208 名 (定点あたり 1.54 → 2.48 人) の報告があり、前週より増加しました。
 ○流行性耳下腺炎は、県全体で 103 名 (定点あたり 1.52 → 1.91 人) の報告があり、前週より増加しました。
 備北地域は発生レベル3 に、美作地域は発生レベル2 になりました。
 ○感染性胃腸炎は、県全体で 400 名 (定点あたり 8.22 → 7.41 人) の報告があり、前週より減少しました。

【第3週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 14 施設でありました。(1月18～21日)

1. [インフルエンザ](#)は、県全体で 208 名 (定点あたり 1.54 → 2.48 人) の報告があり、前週より増加しました。岡山県は、1月14日「[インフルエンザ注意報](#)」を発令し、広く注意を呼びかけています。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
2. [流行性耳下腺炎 \(おたふくかぜ\)](#)は、県全体で 103 名 (定点あたり 1.52 → 1.91 人) の報告があり、前週より増加しました。過去 10 年間の同時期と比較して最も多い状態です。地域別では、備北地域 (9.50 人)、美作地域 (3.17 人)、岡山市 (2.43 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
3. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で 400 名 (定点あたり 8.22 → 7.41 人) の報告があり、前週より減少しました。地域別では、倉敷市 (11.27 人)、備北地域 (9.75 人)、真庭地域 (7.50 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。

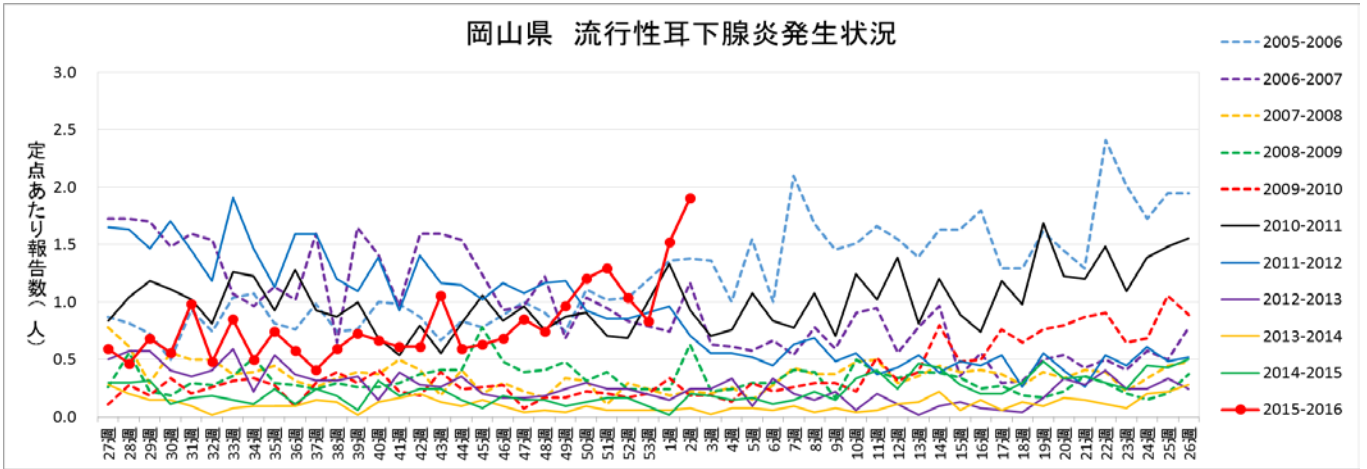
流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↘	★	RSウイルス感染症	↘	★
咽頭結膜熱	↘	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	★★
感染性胃腸炎	↘	★	水痘	↘	★
手足口病	→		伝染性紅斑	→	★★★★
突発性発疹	↘	★	百日咳	↑	★
ヘルパンギーナ	↑	★	流行性耳下腺炎	↗	★★★★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	↘	★★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	↑	★★	クラミジア肺炎	→	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	→	* 感染性胃腸炎 (ロタウイルス)については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

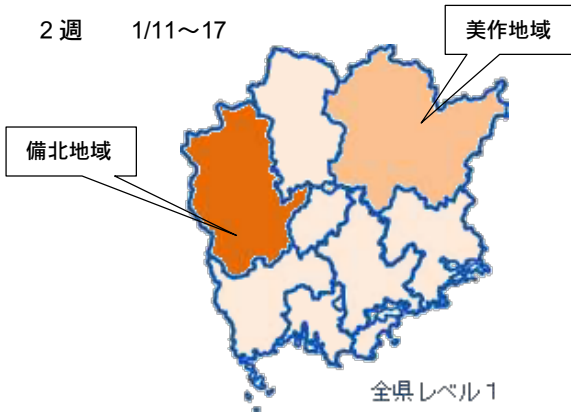
【記号の説明】 前週からの推移： ↓ : 2 倍以上の減少 ↘ : 1.1～2 倍未満の減少 → : 1.1 未満の増減
 ↗ : 1.1～2 倍未満の増加 ↑ : 2 倍以上の増加
 発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。
 空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症 流行性耳下腺炎

【岡山県の発生状況】



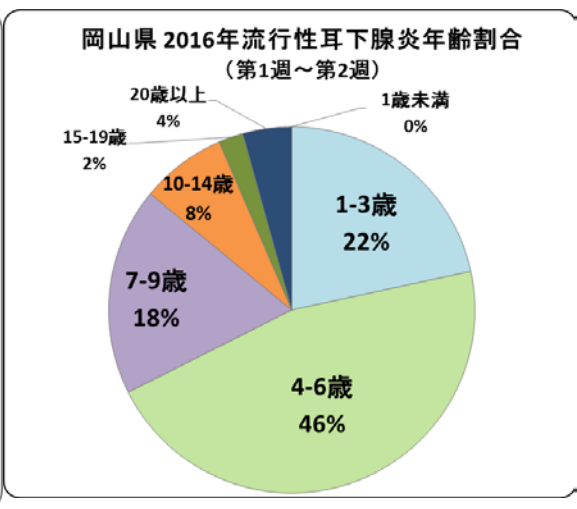
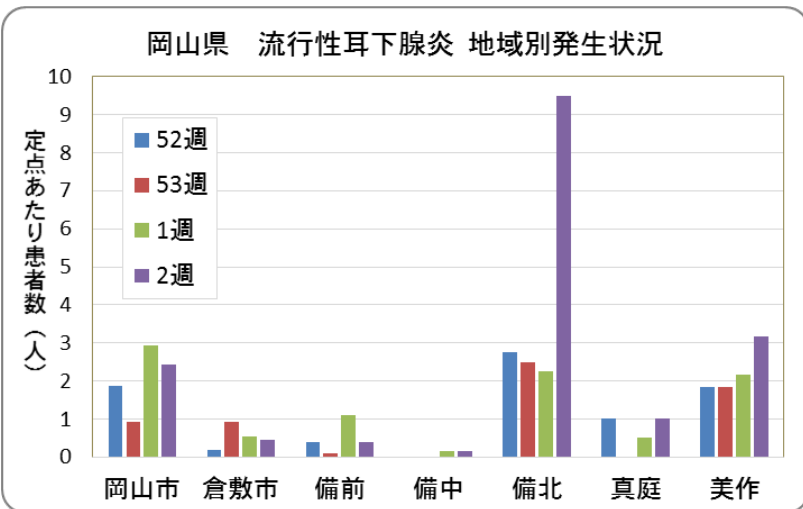
流行性耳下腺炎感染症マップ



流行性耳下腺炎
発生レベル基準値（定点あたり報告数）

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
6	2	3以上 6未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0 < 3未満		0

流行性耳下腺炎は、県全体で103名（定点あたり1.52 → 1.91人）の報告があり、2週連続で増加しました。過去10年間の同時期と比較して最も多い状態です。地域別では、備北地域で定点あたり報告数が9.50人と、前週（2.25人）より大きく増加し、「発生レベル3」になり、また美作地域でも増加がみられ「発生レベル2」となりました。備北地域（9.50人）、美作地域（3.17人）、岡山市（2.43人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年齢別累計割合では、4-6歳 46%、1-3歳 22%、7-9歳 18%の順に高くなっています。



【流行性耳下腺炎とは】

流行性耳下腺炎は「おたふくかぜ」とも呼ばれ、唾液腺の腫脹を特徴とするムンプスウイルスによる感染症です。3～6歳の小児に多い感染症で、感染力はかなり強いと言われています。主な感染経路は、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込む飛沫感染や、ウイルスが付いた手で口や鼻に触れることによる接触感染です。

【症状】

症状は、2～3週間の潜伏期間を経て、唾液腺の腫れや圧痛、嚥下痛、発熱を主症状として発症し、通常1～2週間で軽快します。まれに無菌性髄膜炎や難聴を合併することがあり、無菌性髄膜炎は患者の約1～10%に出現するといわれています。それに対して難聴は、患者の約0.005%（20,000人に1人）と頻度は少ないですが、永続的な障害となるため重要な合併症のひとつです。また思春期以降感染した場合、男性では約20～30%に睾丸炎、女性では約7%に卵巣炎を合併するといわれています。

【治療・予防】

有効な特効薬はなく、治療は対症療法が中心です。効果的に予防する唯一の方法は、ワクチンを接種することです。ワクチンの副反応としては、接種者の100人に2～3人の割合で、接種後3週間前後に軽度の耳下腺腫脹と微熱がみられることがあり、2,000～2,500人に1人の割合で、無菌性髄膜炎がみられることがあります。

[流行性耳下腺炎（ムンプス、おたふくかぜ）（国立感染症研究所）](#)

[おたふくかぜの自然感染とワクチン接種後の無菌性髄膜炎の発生について（IASR Vol.34:2013年8月号）](#)

インフルエンザ週報 2016年 第2週 (1月11日～1月17日)

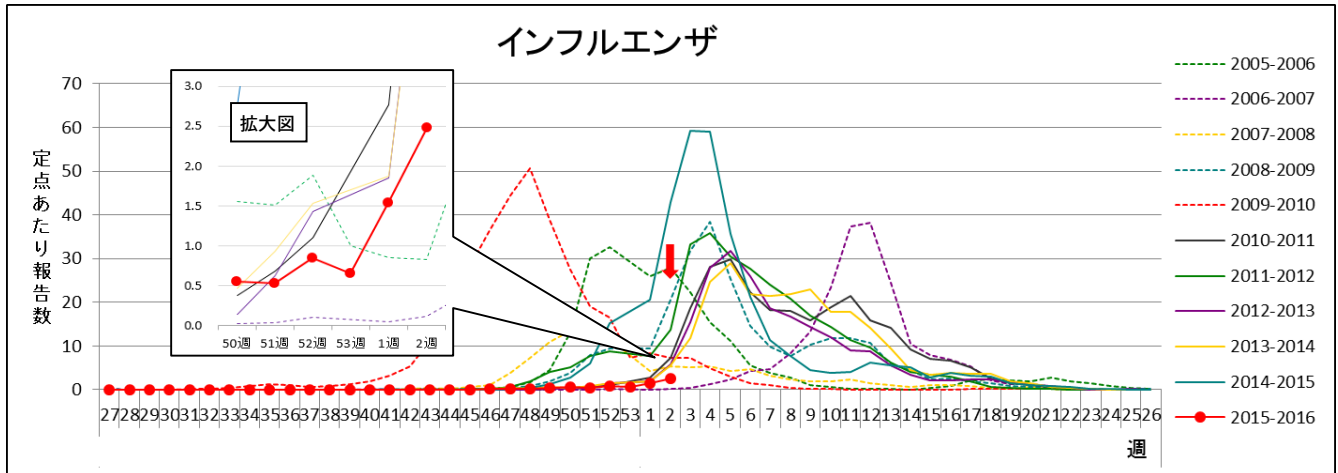
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で208名(定点あたり2.48人)の報告がありました。(84定点医療機関報告)
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が2施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者2名の報告がありました。

【第3週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が14施設でありました(1月18～21日)



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で208名(定点あたり1.54 → 2.48人)の報告があり、前週より増加しました。岡山県は、1月14日に「インフルエンザ注意報」を発令し、広く注意を呼びかけています。

地域別では、倉敷市(4.13人)、備中地域(3.33人)、真庭地域(2.67人)の順で、定点あたり報告数が多くなっており、多くの地域で前週より増加しています。

第2週の学校等の臨時休業は、岡山市内の中学校2施設から報告がありました。また第3週(1/18～)には、中学校・高等学校に加え、今シーズン報告の少なかった小学校でも臨時休業が報告されています。

『外出後や食事前の手洗いを徹底する。』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する。』『十分な睡眠を取る。』など、感染予防に努めてください。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

◆インフルエンザは流行期に入っています。 感染予防に努めましょう。

【 予 防 】

- * 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- * 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- * 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- * 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50～60%)を保ちましょう。

【 かかったかな?という時には 】

- * 早めに医療機関を受診しましょう。
- * 周りの人にうつさないように、「咳エチケット」を心がけましょう。
- * 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

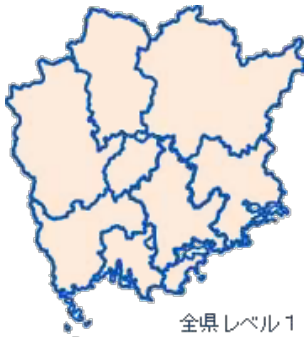
1.地域別発生状況

前週からの推移 (単位:人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	208	➡	備 中	患者数	40	➡
	定点あたり	2.48			定点あたり	3.33	
岡山市	患者数	45	➡	備 北	患者数	2	⬇
	定点あたり	2.05			定点あたり	0.33	
倉敷市	患者数	66	➡	真 庭	患者数	8	➡
	定点あたり	4.13			定点あたり	2.67	
備 前	患者数	28	⬆	美 作	患者数	19	➡
	定点あたり	1.87			定点あたり	1.90	

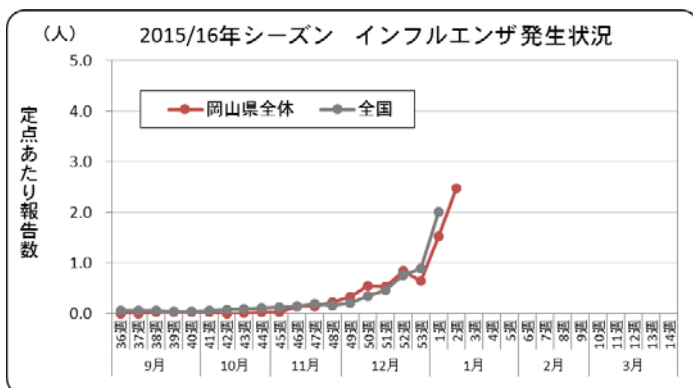
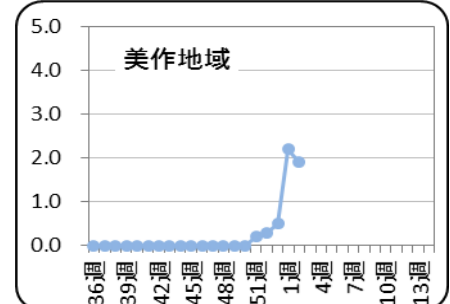
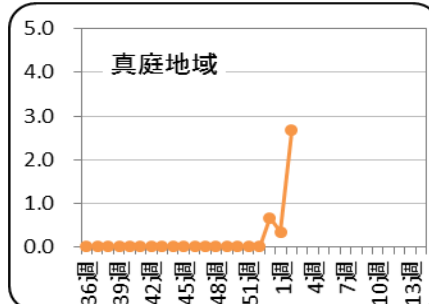
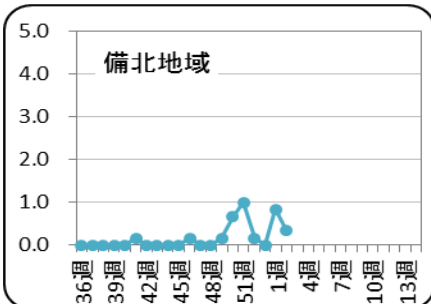
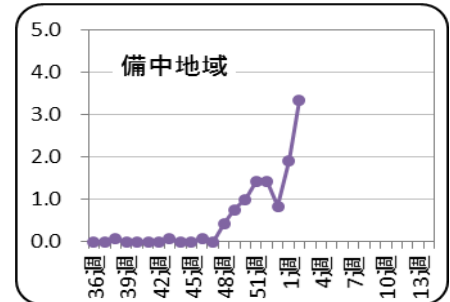
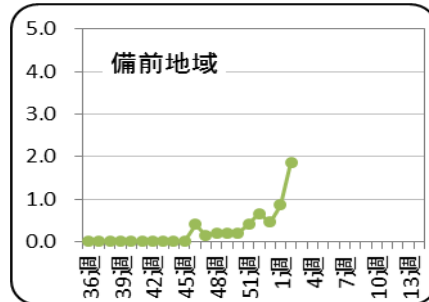
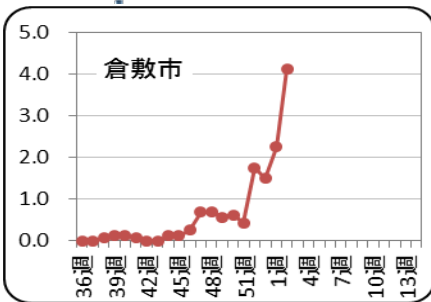
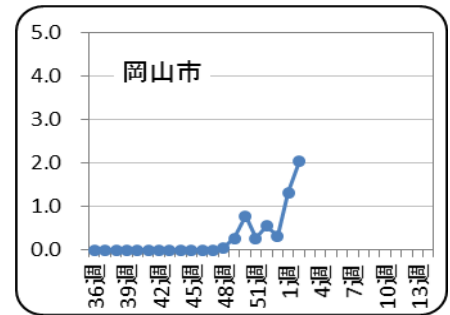
【記号の説明】 前週からの推移
 ⬇ : 2倍以上の減少 ⬇ : 1.1~2倍未満の減少 ➡ : 1.1未満の増減
 ➡ : 1.1~2倍未満の増加 ⬆ : 2倍以上の増加

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0 < 10未満		0



全国集計第1週(1/4~1/10)速報値によると、全国の定点あたり報告数は2.02人となり、今シーズン初めて、流行開始の指標である1.00人を上まわりました。都道府県別では、沖縄県(8.19人)、秋田県(7.85人)、新潟県(5.73人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。

2) 臨時休業施設数の内訳

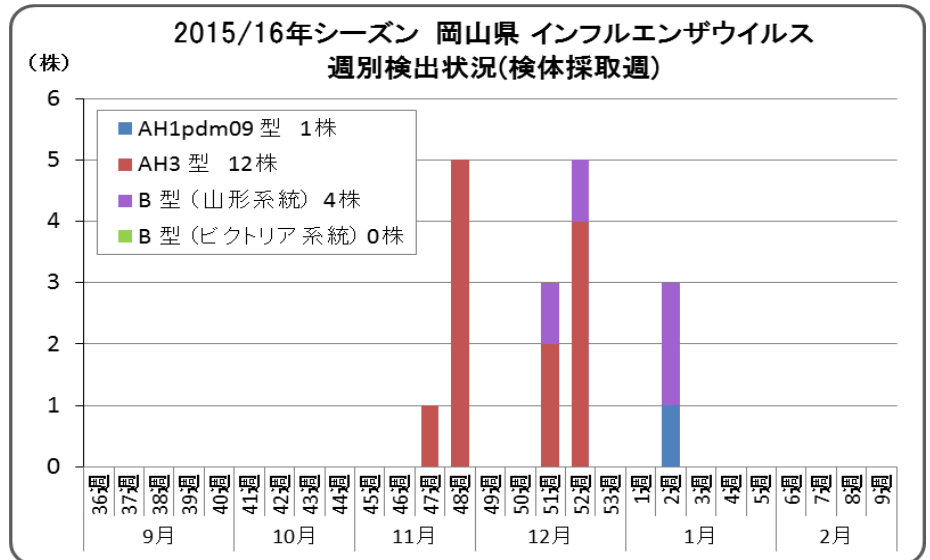
第2週：2施設

累計：10施設

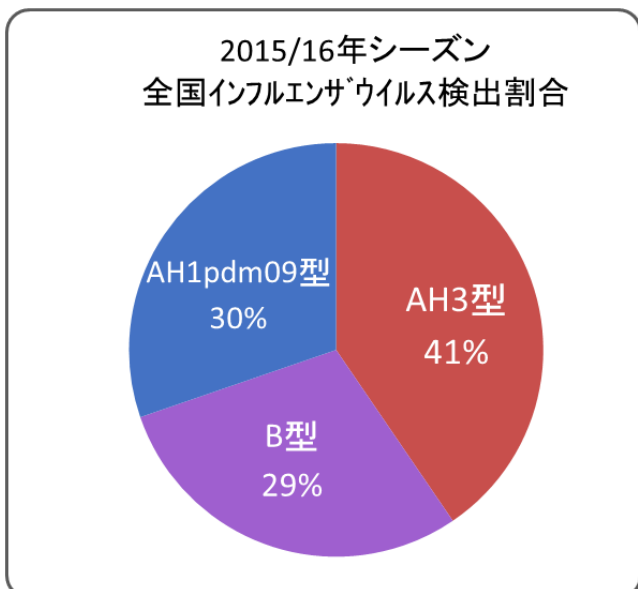
	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	-	-	0	1	0	1	2	3	0	5	-	-

4. インフルエンザウイルス検出状況

第2週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、B型（山形系統）3株、AH1pdm09型1株、AH3型1株の計5株でした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型12株（71%）、B型（山形系統）4株（23%）、AH1pdm09型1株（6%）となっています。



ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2016年第2週(1/11~1/17)	2016/1/12	備前	小学生	男	
インフルエンザウイルスB型	2016年第2週(1/11~1/17)	2016/1/12	岡山市	中学生	女	集団発生事例 山形系統
インフルエンザウイルスB型	2016年第2週(1/11~1/17)	2016/1/12	岡山市	中学生	男	集団発生事例 山形系統
インフルエンザウイルスAH3型	2015年第52週(12/21~12/27)	2015/12/25	岡山市	70代	男	
インフルエンザウイルスB型	2015年第52週(12/21~12/27)	2015/12/22	岡山市	10代	女	山形系統



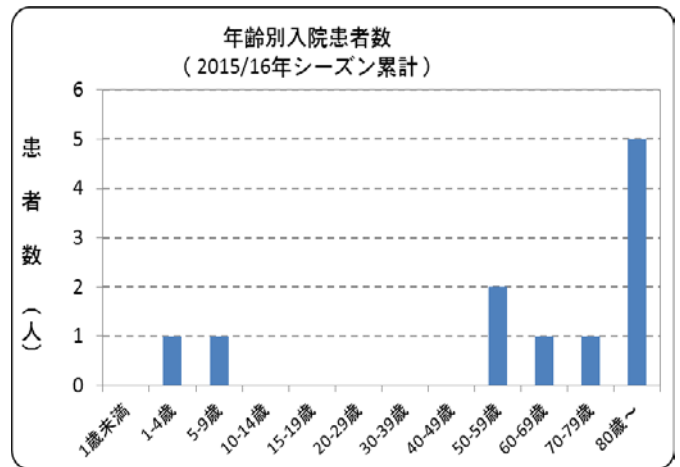
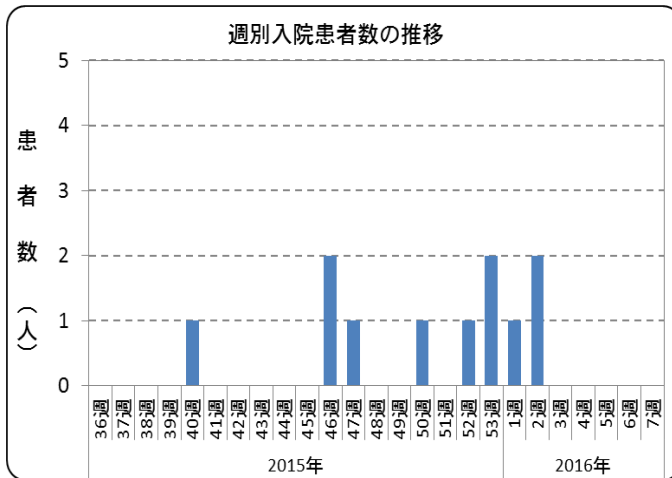
今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型119株（41%）、AH1pdm09型89株（30%）、B型86株（29%）となっています。（2016年1月15日現在）

[インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、2名（1～4歳 1名、60～69歳 1名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 2 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数		1								1			2
ICU入室													
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)		1											1
頭部 MRI 検査(予定含)													
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず										1			1

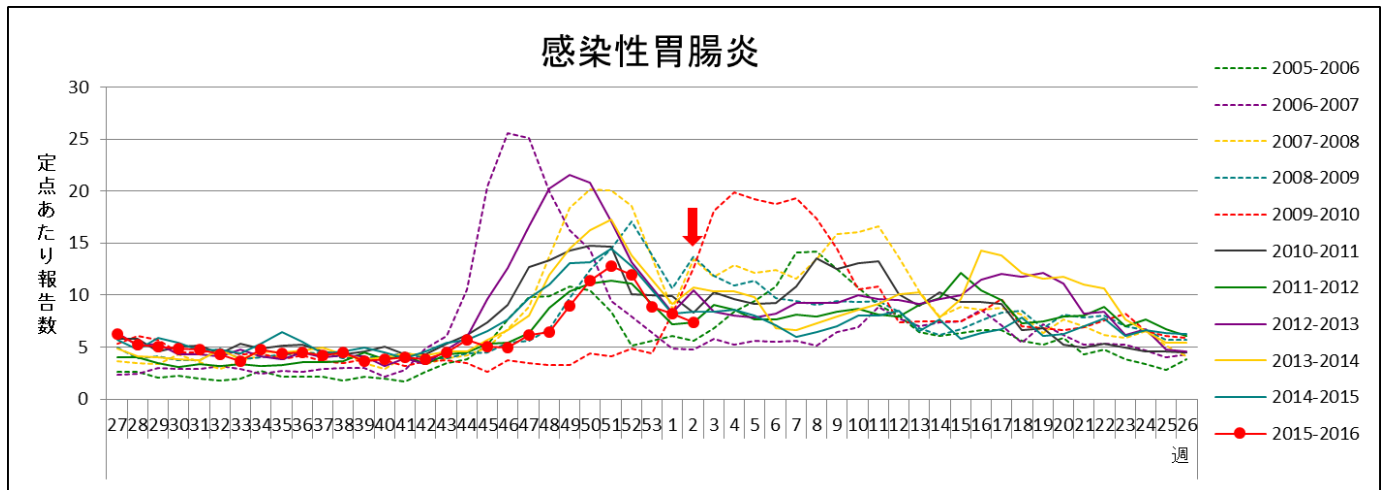
【2015年8月31日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数		1	1						2	1	1	5	11
ICU入室			1						1				2
人工呼吸器の利用			1						1		1		3
頭部 CT 検査(予定含)		1											1
頭部 MRI 検査(予定含)													
脳波検査(予定含)			1										1
いずれにも該当せず										1		5	6

* 重複あり

感染性胃腸炎週報 2016年 第2週 (1月11日 ~ 1月17日)

○感染性胃腸炎は、県全体で400名（定点あたり8.22 → 7.41人）の報告がありました（54定点医療機関報告）。

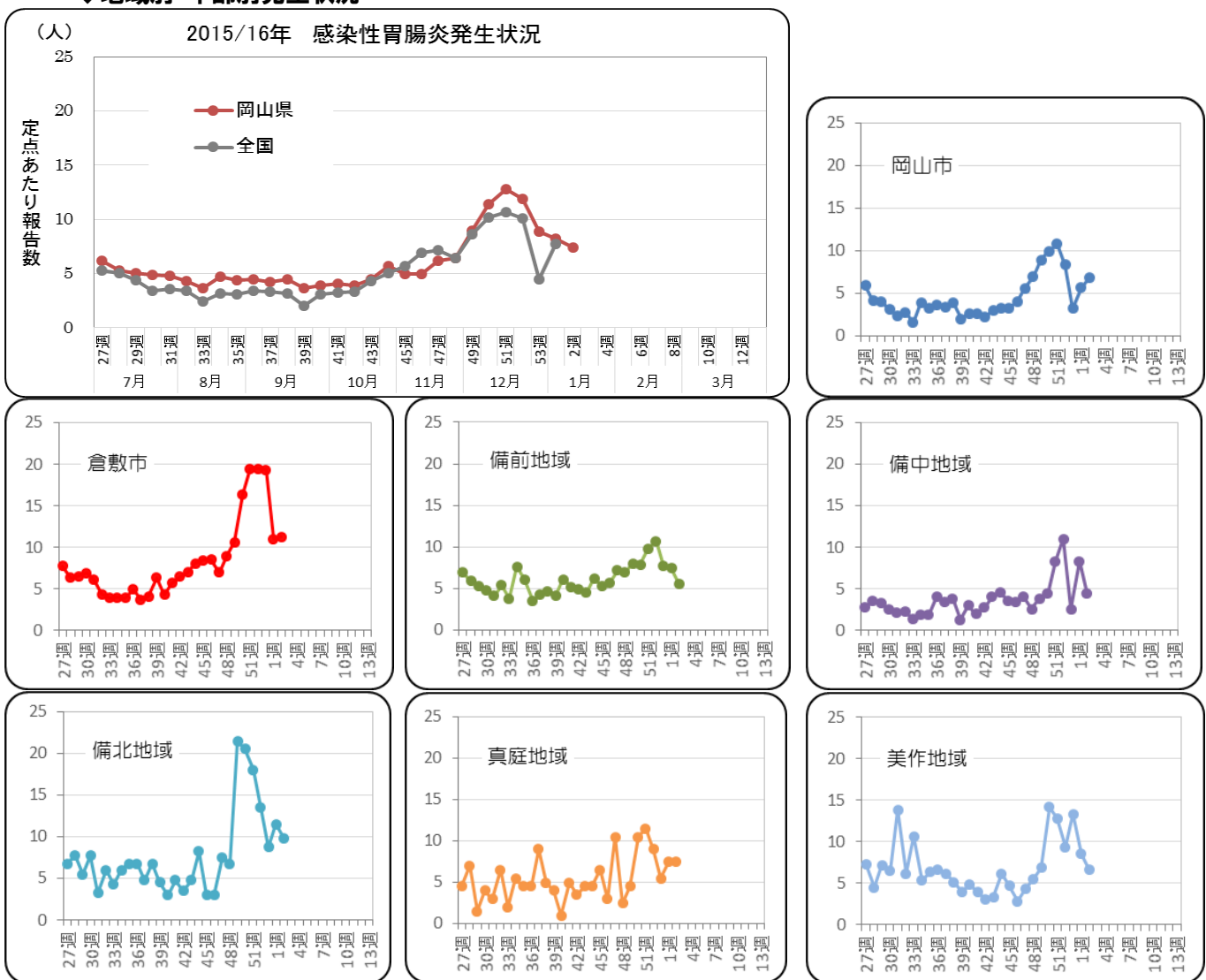


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

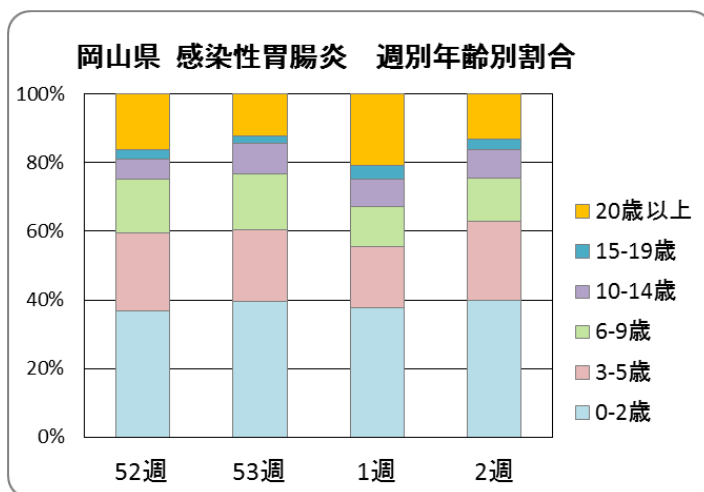
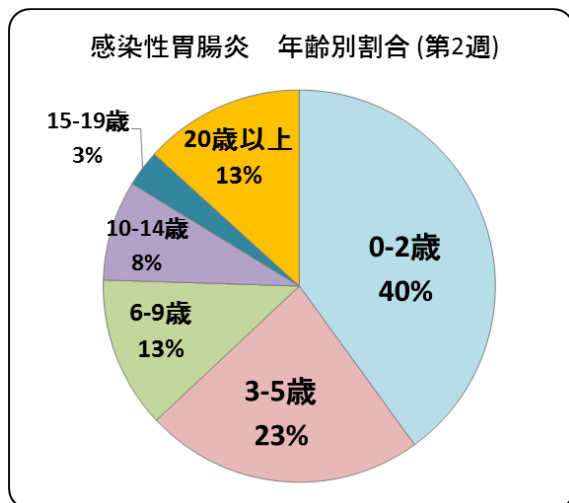
感染性胃腸炎は、県全体で400名（定点あたり8.22 → 7.41人）の報告があり、前週より減少しました。県全体の報告数は12月に比べて減少したものの、依然として多くの患者が報告されています。地域別では、倉敷市（11.27人）、備北地域（9.75人）、真庭地域（7.50人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。また、小さなお子さんや高齢者の方は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

◆地域別・年齢別発生状況



年齢別割合では、0-2歳が40%と最も高く、次いで3-5歳 23%、6-9歳・20歳以上 各13%の順となっています。



◆◆ ノロウイルスに感染しないためには ◆◆

1. 最も大切なことは手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。アルコールは、ノロウイルスに対して消毒効果が低いとされています。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で1分以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**の消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

※塩素系漂白剤の使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を85～90℃で90秒間以上）

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

保健所別報告患者数(定点把握疾患) 2016年 2週 (2016/01/11~2016/01/17)

2016年1月21日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	208	2.48	45	2.05	66	4.13	28	1.87	40	3.33	2	0.33	8	2.67	19	1.90
RSウイルス感染症	24	0.44	9	0.64	5	0.45	3	0.30	2	0.29	-	-	-	-	5	0.83
咽頭結膜熱	14	0.26	8	0.57	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	64	1.19	15	1.07	29	2.64	6	0.60	8	1.14	-	-	3	1.50	3	0.50
感染性胃腸炎	400	7.41	95	6.79	124	11.27	56	5.60	31	4.43	39	9.75	15	7.50	40	6.67
水痘	12	0.22	5	0.36	3	0.27	3	0.30	-	-	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	24	0.44	11	0.79	3	0.27	3	0.30	-	-	-	-	2	1.00	5	0.83
突発性発疹	11	0.20	8	0.57	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
百日咳	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	103	1.91	34	2.43	5	0.45	4	0.40	1	0.14	38	9.50	2	1.00	19	3.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	4	0.80	-	-	1	1.00	2	2.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	5	1.00	-	-	2	2.00	-	-	-	-	3	3.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数（発生レベル設定疾患）2016年 2週 （2016/01/11～2016/01/17）

2016年1月21日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	208	2.48	45	2.05	66	4.13	28	1.87	40	3.33	2	0.33	8	2.67	19	1.90
咽頭結膜熱	14	0.26	8	0.57	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	64	1.19	15	1.07	29	2.64	6	0.60	8	1.14	-	-	3	1.50	3	0.50
感染性胃腸炎	400	7.41	95	6.79	124	11.27	56	5.60	31	4.43	39	9.75	15	7.50	40	6.67
水痘	12	0.22	5	0.36	3	0.27	3	0.30	-	-	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	24	0.44	11	0.79	3	0.27	3	0.30	-	-	-	-	2	1.00	5	0.83
百日咳	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	103	1.91	34	2.43	5	0.45	4	0.40	1	0.14	38	9.50	2	1.00	19	3.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	4	0.80	-	-	1	1.00	2	2.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2016年 第2週 2016/01/11~2016/01/17)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	208	2	1	7	3	6	10	11	9	4	5	6	33	14	16	21	33	11	9	5	2

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	24	7	8	4	3	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	14	-	1	5	3	1	1	1	1	-	1	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	64	-	2	-	3	7	8	12	5	6	9	3	7	-	2
感染性胃腸炎	400	3	28	71	58	27	47	18	19	12	8	11	33	12	53
水痘	12	-	2	1	-	-	3	2	-	-	-	1	2	-	1
手足口病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	24	-	-	3	-	2	5	3	4	3	1	2	1	-	-
突発性発疹	11	-	3	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	103	-	-	5	4	10	12	19	15	10	9	3	8	2	6

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	3	-	-	2	-

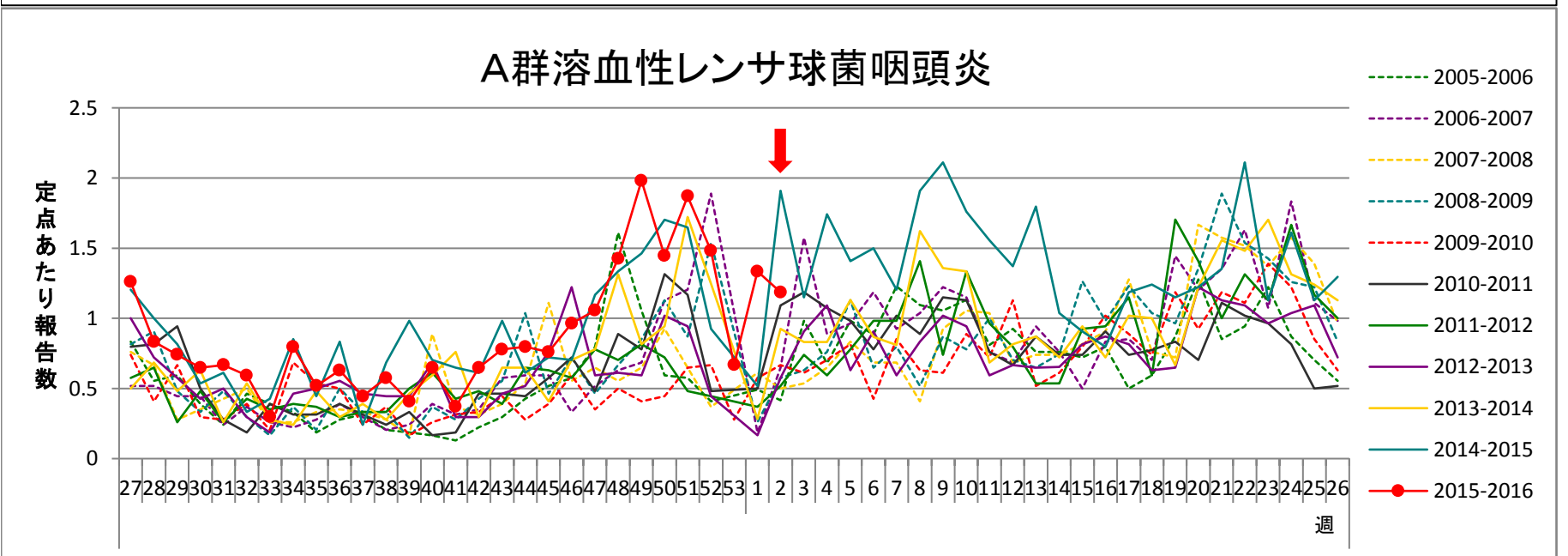
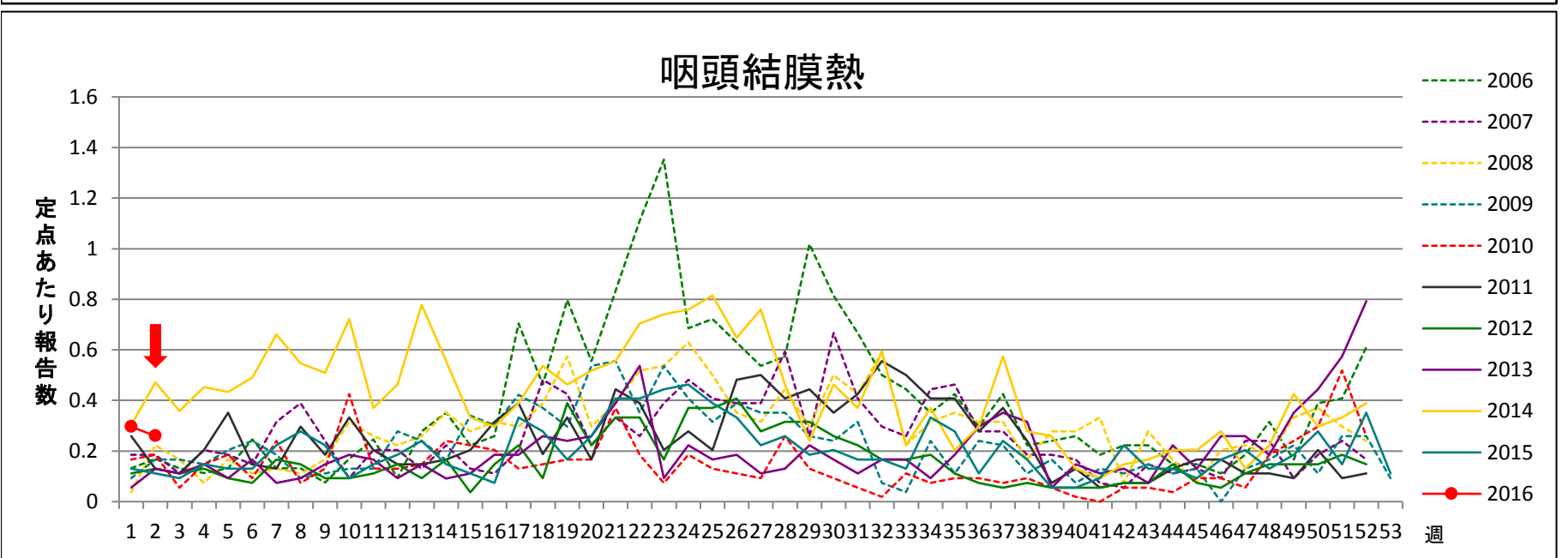
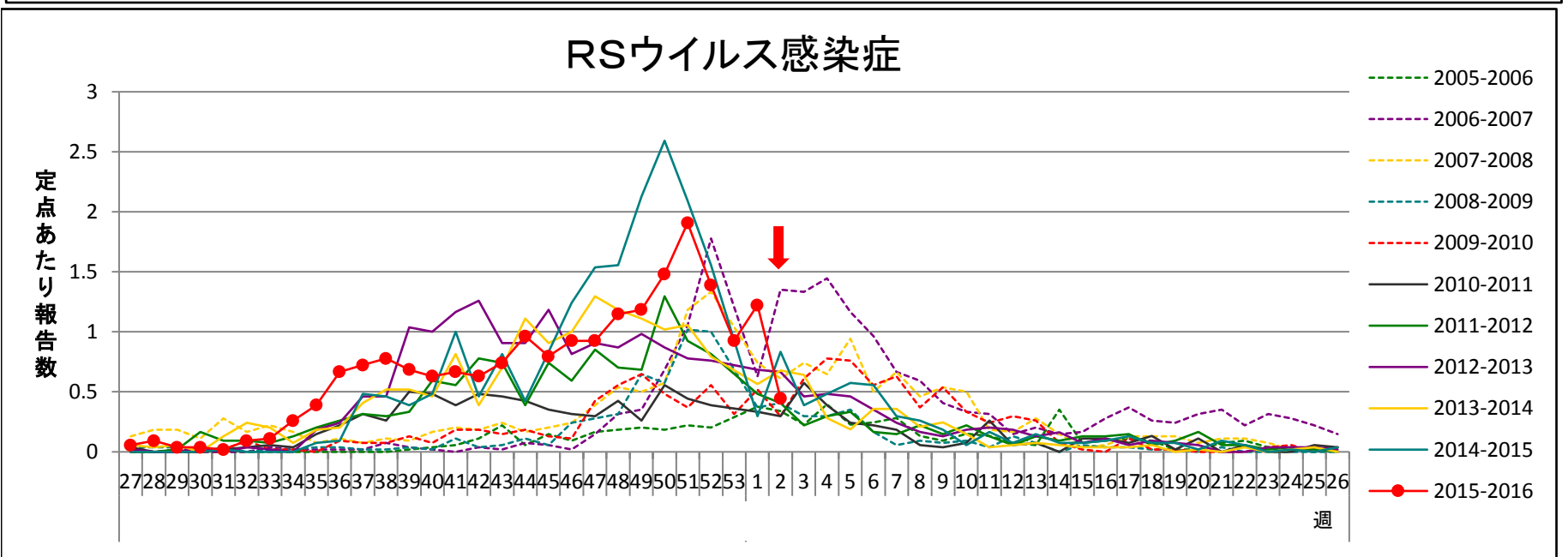
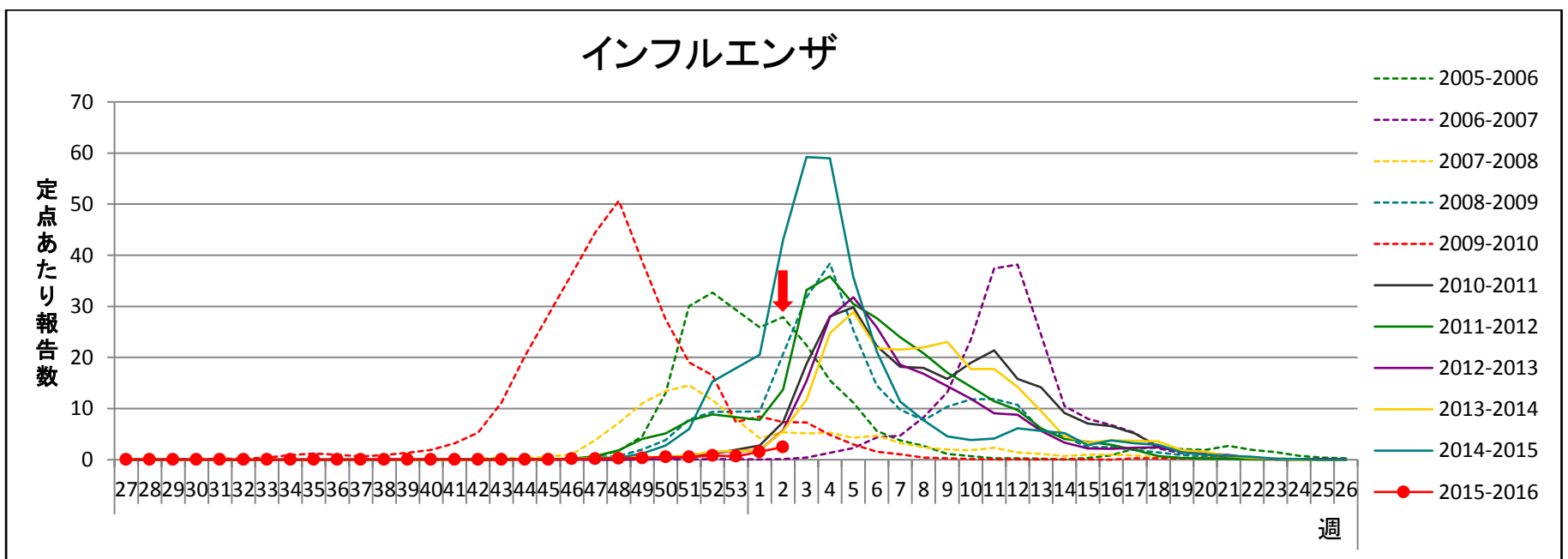
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	5	-	-	2	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

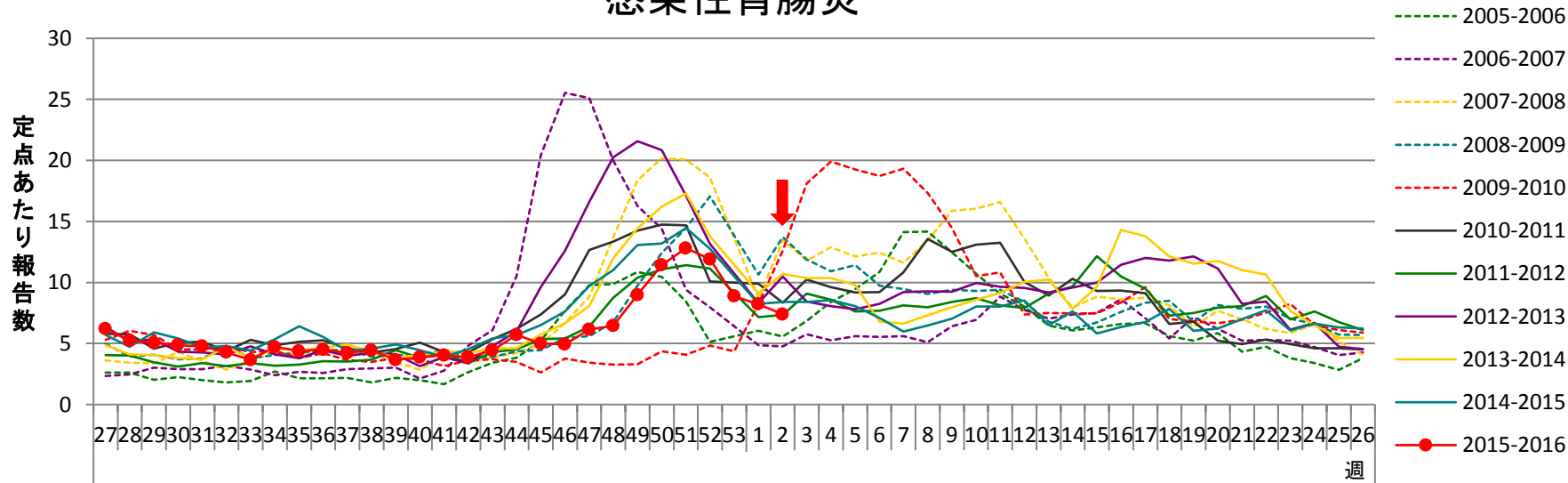
全数把握 感染症患者発生状況

2016年 2週

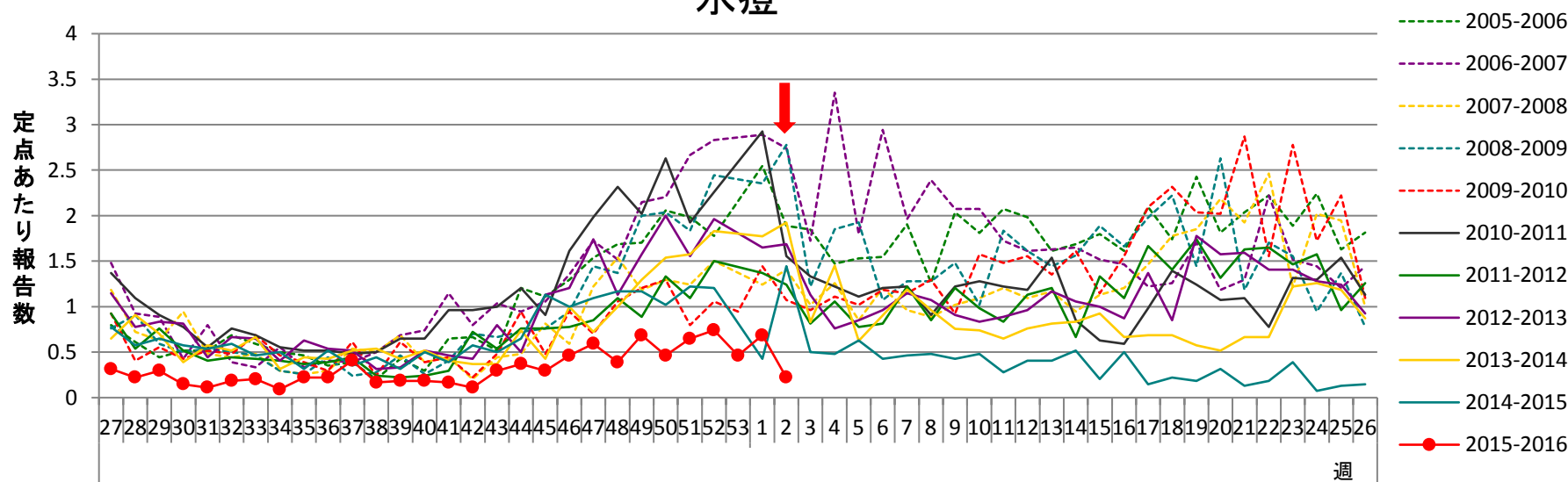
分類	疾病名	2016			疾病名	2016			疾病名	2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	2	6	369	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	2	腸管出血性大腸菌感染症	-	-	63
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	3	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	9
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	1
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	-	デング熱	-	-	2
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	3	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	2	野兔病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	3	28	レプトスピラ症	-	-	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	-	17	ウイルス性肝炎*3	-	-	9	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	-
急性脳炎*4		-	1	14	クリプトスポリジウム症	-	-	1	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		-	-	2	後天性免疫不全症候群	-	-	20	ジアルジア症	-	-	4
侵襲性インフルエンザ菌感染症		-	-	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	-	35
水痘(入院例に限る。)		-	-	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	1	24
播種性クリプトコックス症		-	-	1	破傷風	-	-	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-	-	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-
薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-		-	-	-		-	-	-



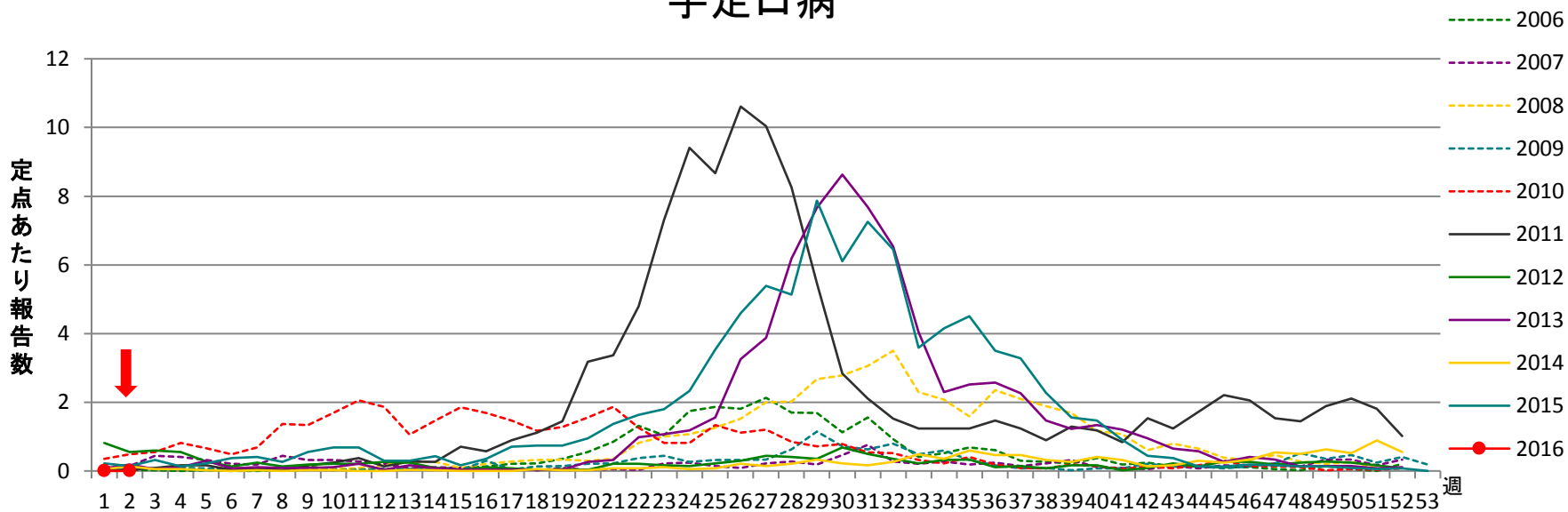
感染性胃腸炎



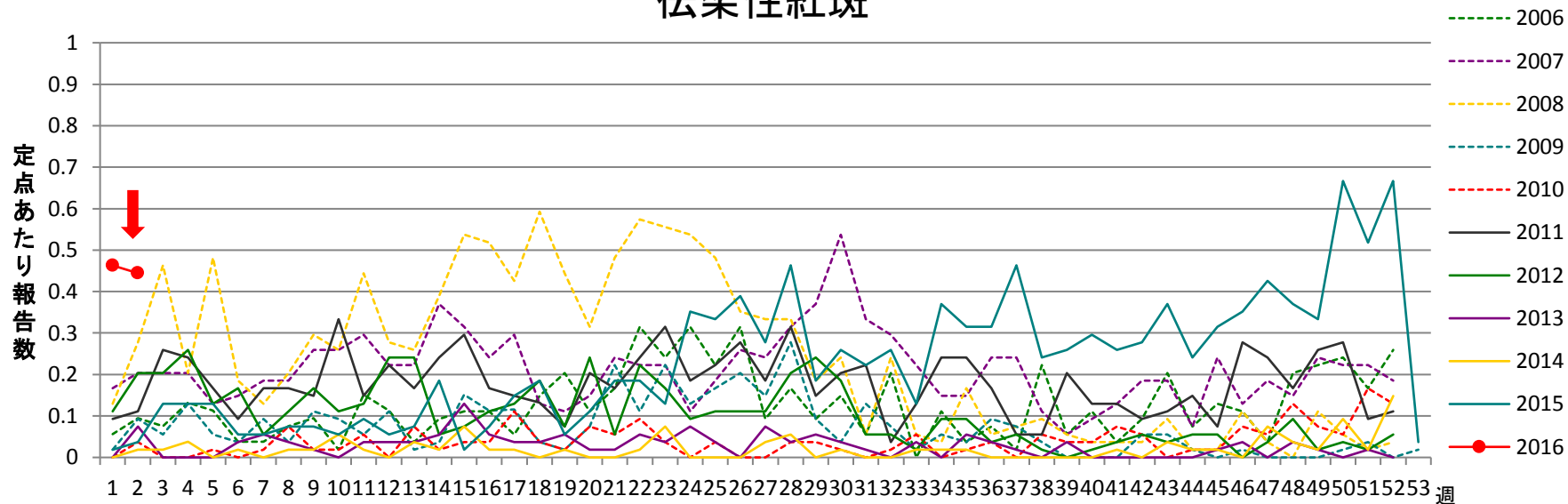
水痘



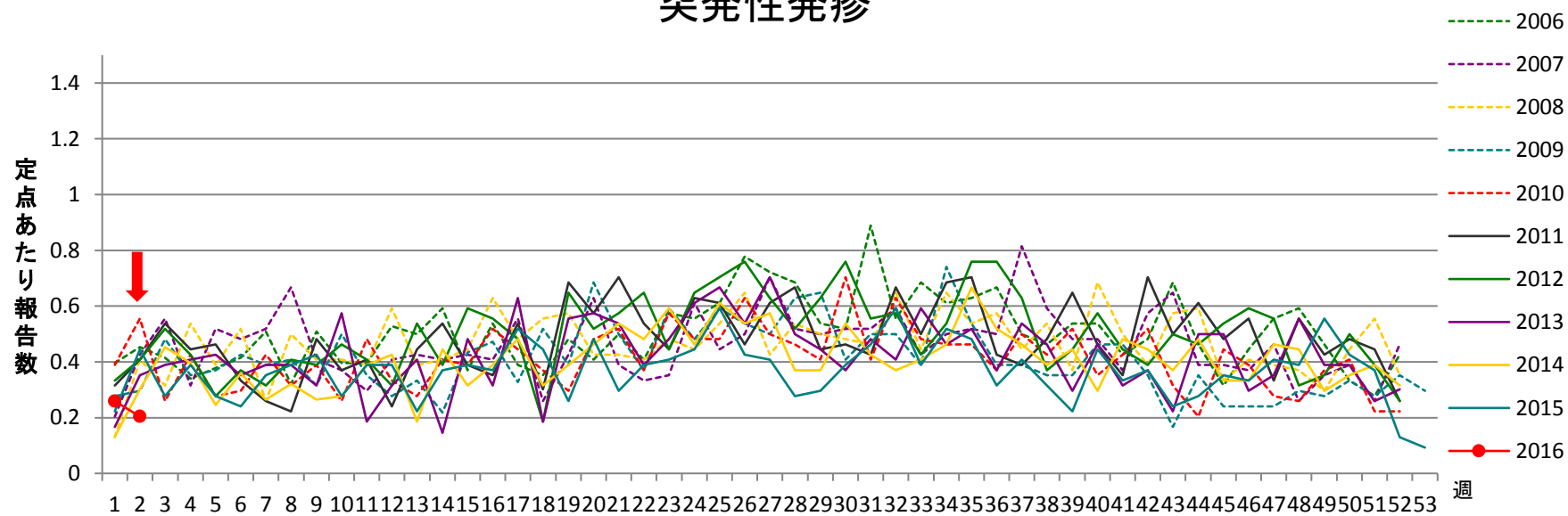
手足口病



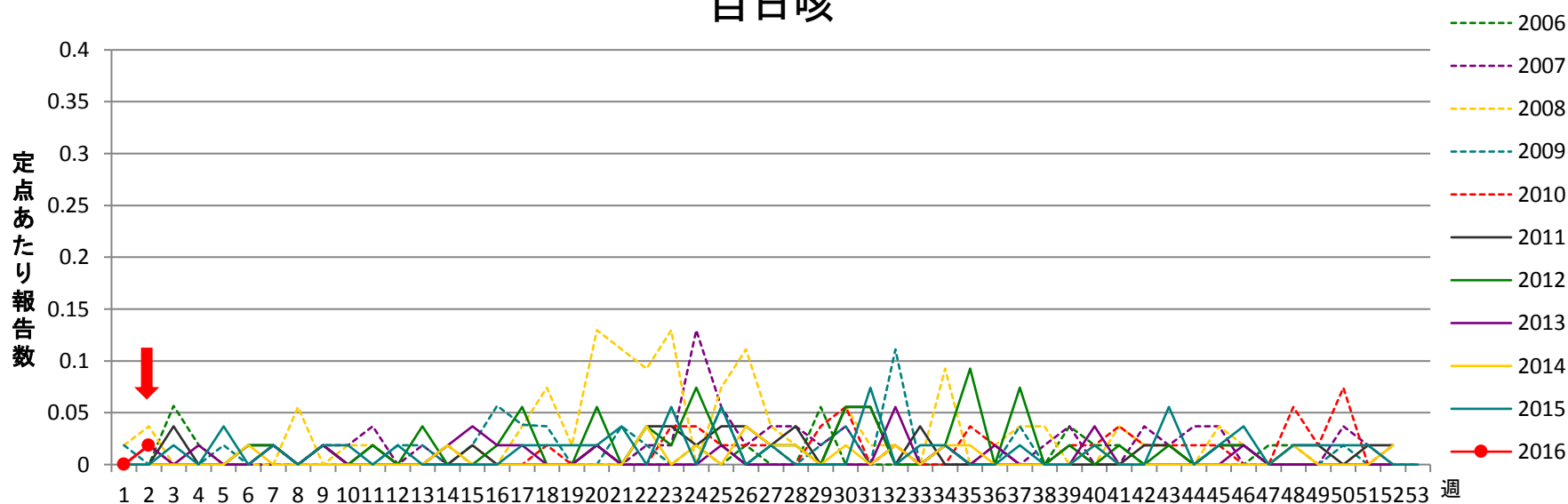
伝染性紅斑



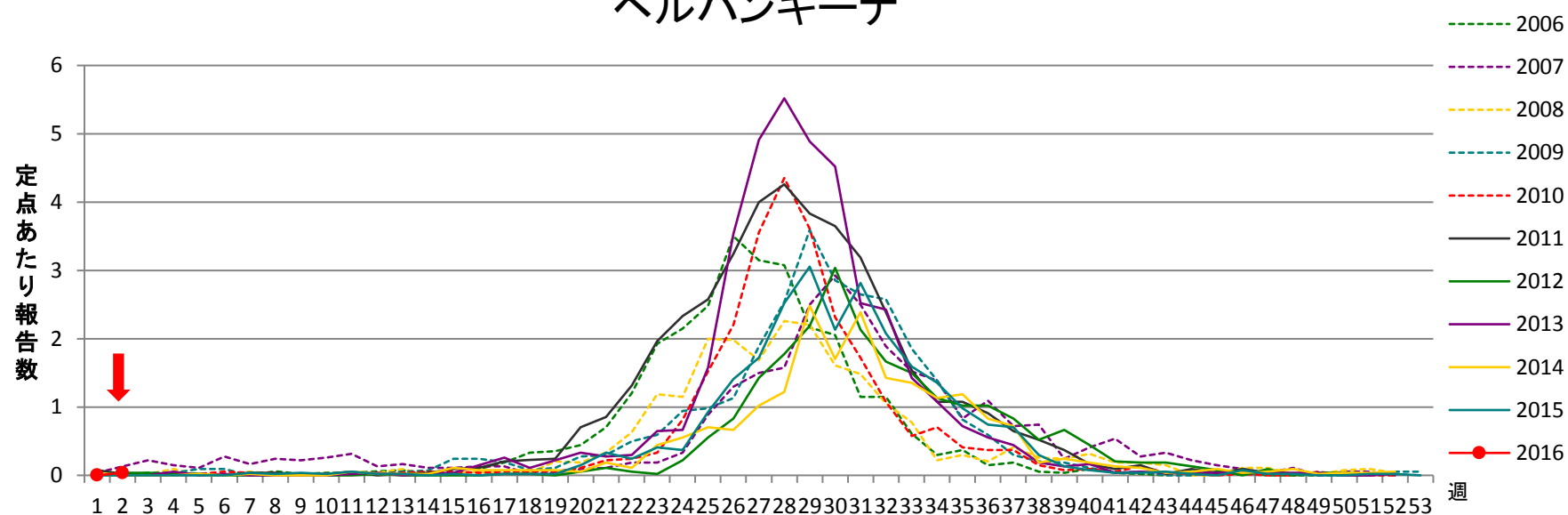
突発性発疹



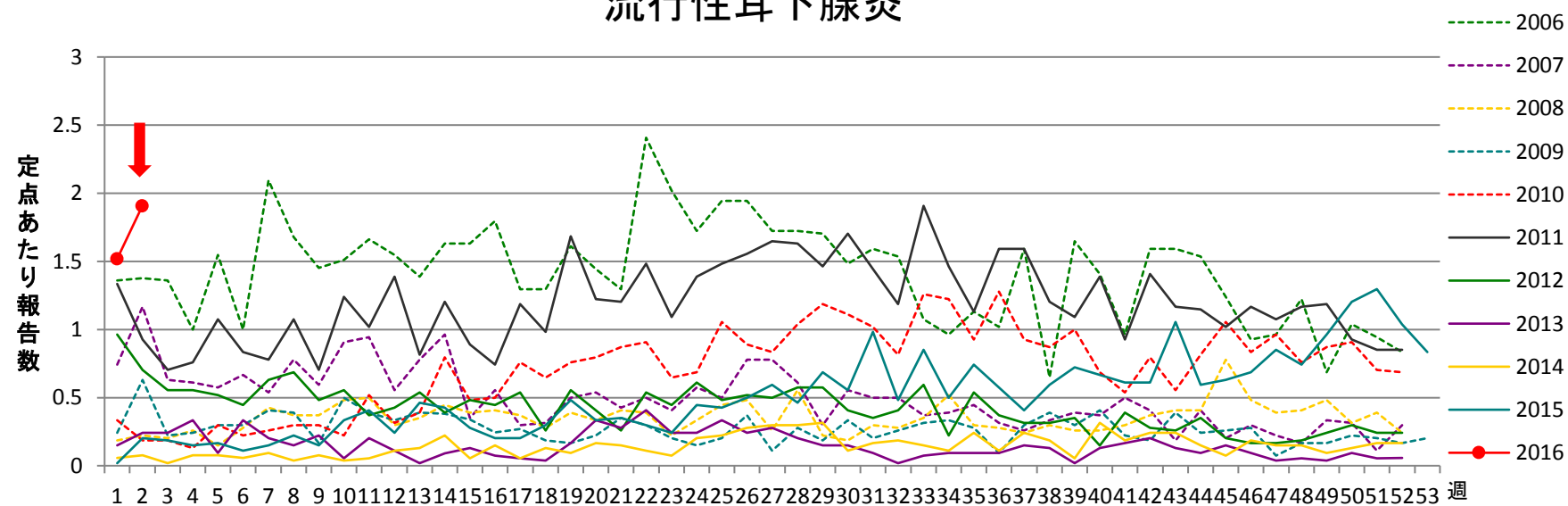
百日咳



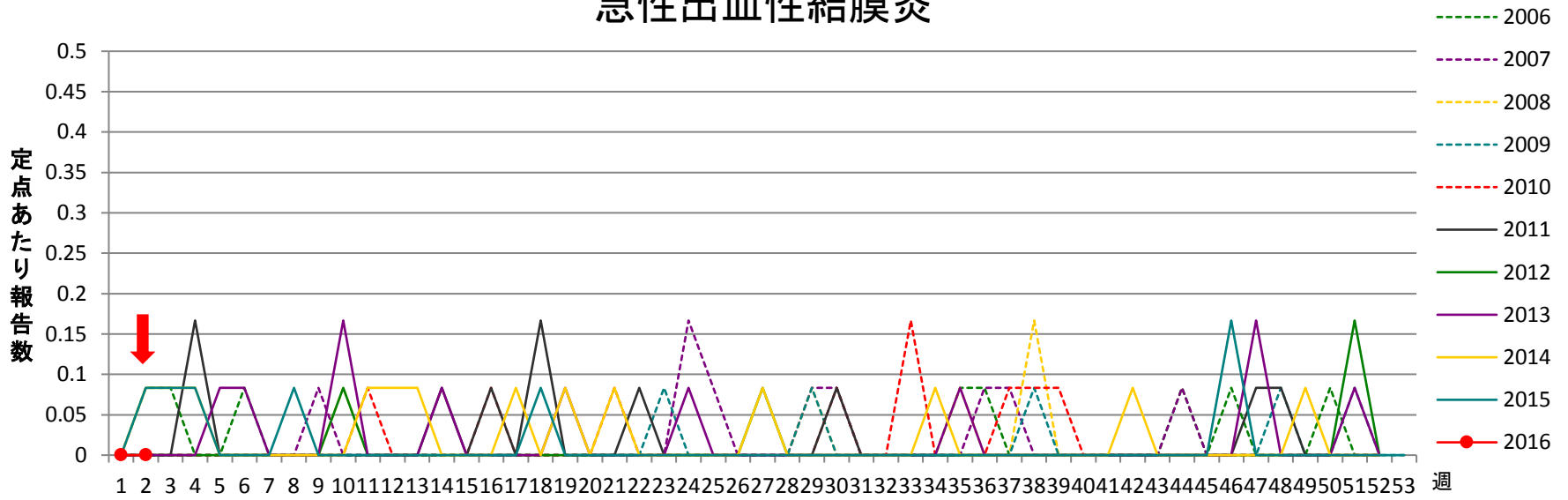
ヘルパンギーナ



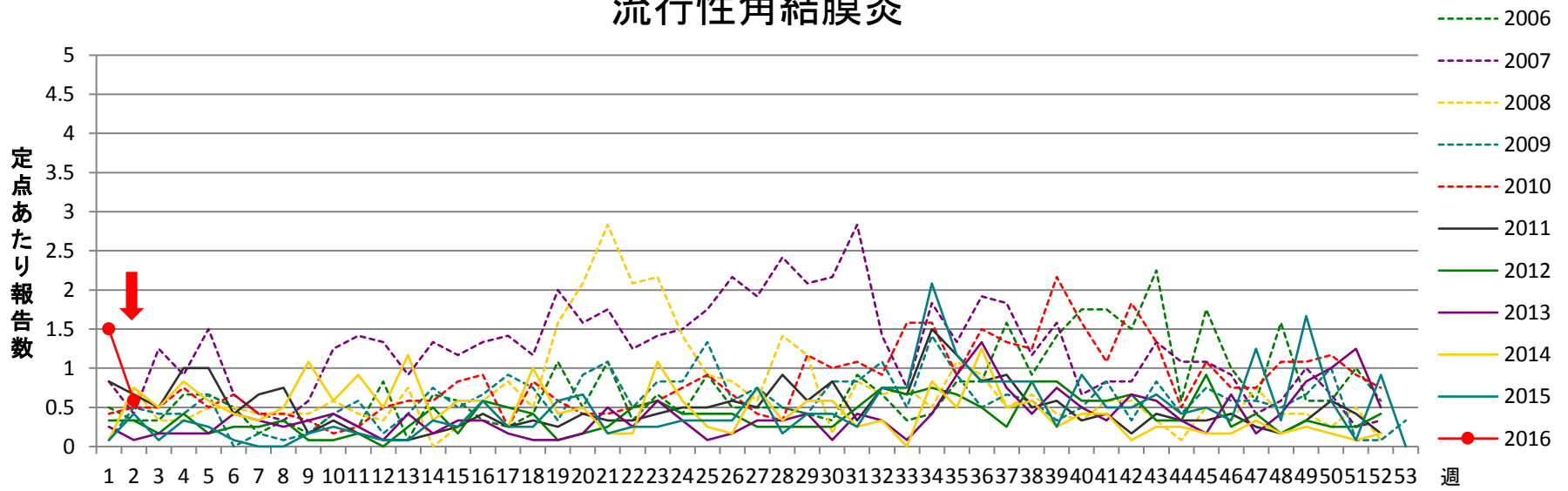
流行性耳下腺炎



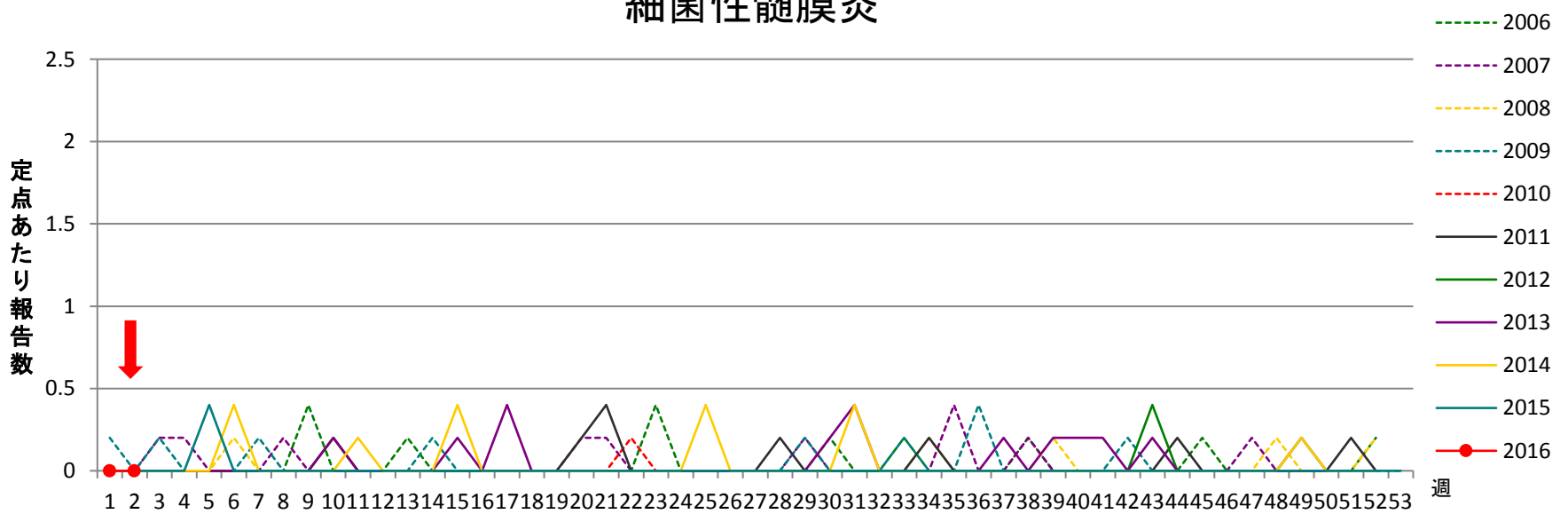
急性出血性結膜炎



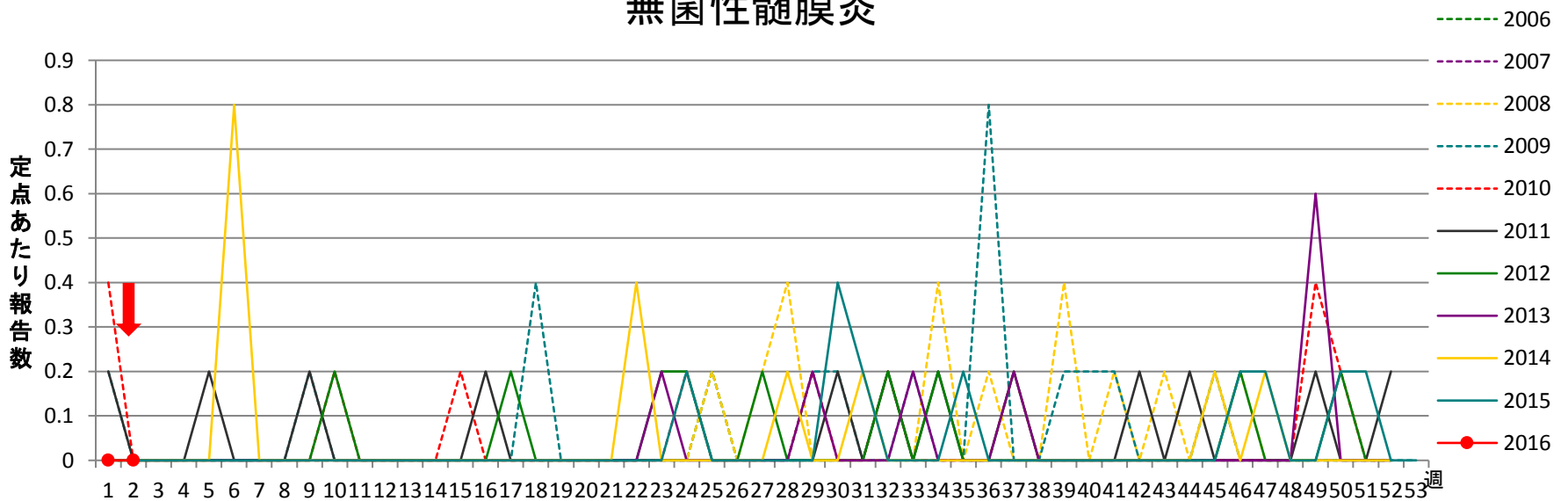
流行性角結膜炎



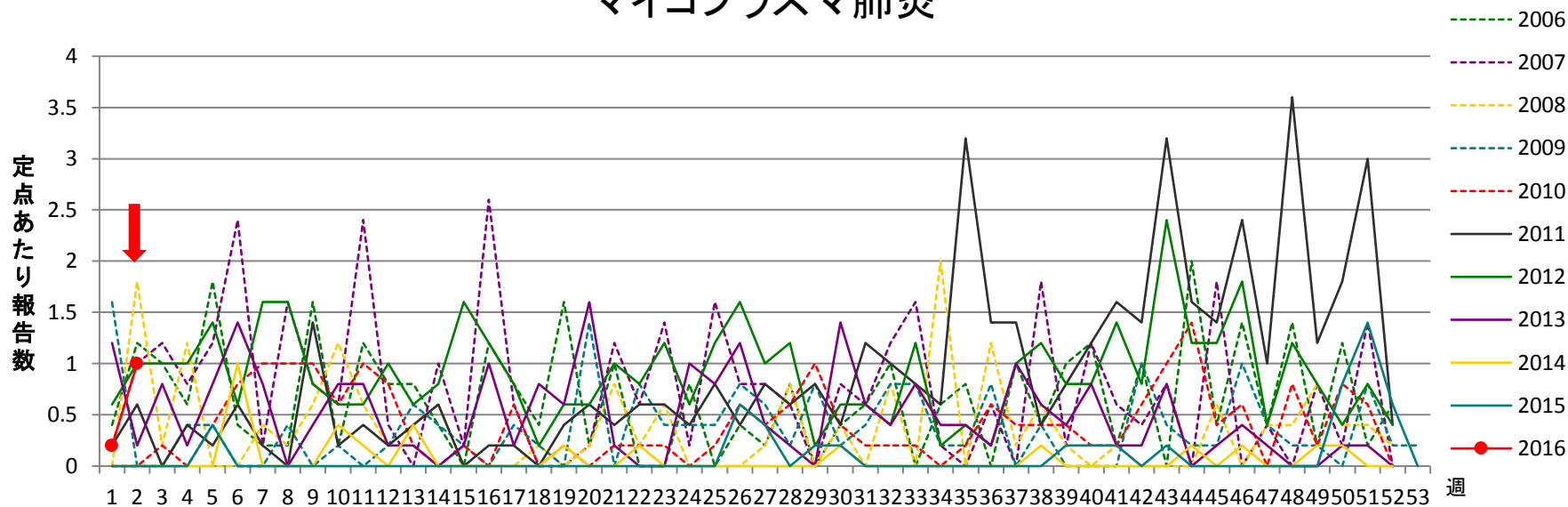
細菌性髄膜炎



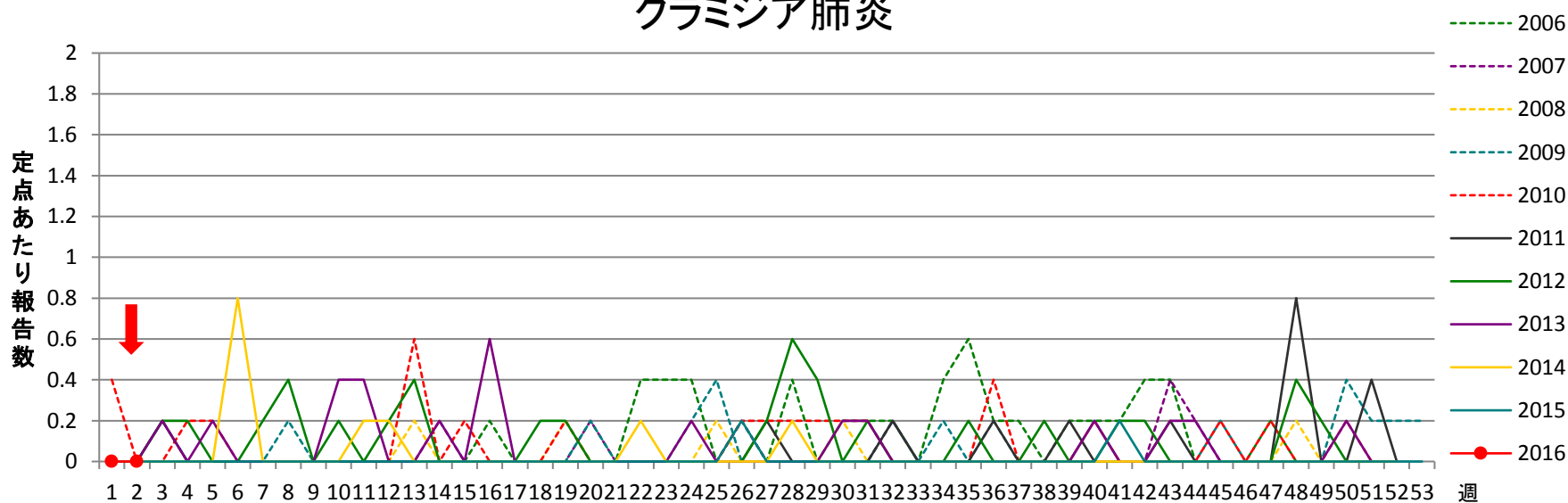
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

